

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】  
～農業技術講習会果樹コースの開催～

令和8年4月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1</b>
1. 和海地方各農業者団体が総会を開催	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>2-3</b>
1. 紀の川市農業士会が総代会を開催	
2. クビアカツヤカミキリ対策会議及び園地巡回調査を実施	
3. 紀の川市4Hクラブが総会を開催	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>4-5</b>
1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】	
2. 令和8年度伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会の開催	
3. 「匠の技 伝道師」による富有柿摘蕾研修会の開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>6-7</b>
1. 令和8年度第1回アグリビギナー・有田農業女子プロジェクト 合同研修会を開催	
2. 有田地方農業士協議会が令和8年度総会・研修会を開催	
3. 有田地方4Hクラブ連絡協議会が令和8年度総代会及び技術交換大会を開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>8-9</b>
1. 日高野菜花き技術者協議会が微小害虫の総合防除研修会を開催	
2. 日高果樹技術者協議会が令和8年産うめ着果状況調査を実施	
3. 日高地方生活研究グループ連絡協議会が総会及び研修会を開催	
4. 重点プロジェクト【うめの安定生産による産地強化】 ～電動バリカンを用いた摘心講習会を開催～	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>10-11</b>
1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の 導入推進による産地維持】 ～電動バリカンによる摘心講習会を開催～	
2. 川添緑茶研究会茶園地巡回を実施	
3. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>12</b>
1. 東牟婁地方農業士会が総会を開催	
2. 田植え体験の開催	

## **Ⅷ 農林大学校**

**13**

1. 令和 8 年度入学式 17 名の学生生活スタート
2. 1 年生が県内の試験研究機関等で研修

## **Ⅸ 経営支援課**

**14**

1. 和歌山県農業士会連絡協議会が総代会・研修会を開催
2. 和歌山県 4H クラブ連絡協議会が令和 8 年度総会及び農村青少年技術交換大会を開催

# I 海草振興局

## 1. 和海地方各農業者団体が総会を開催

和海地方では4月8日に下津農業士会（会長：上森培弘氏、8名出席）、10日に紀美野町農業士会（会長：曲里元文氏、7名出席）、20日に青年農業経営者協議会（会長：山本達弥氏、6名出席）、21日に海南市生活研究グループ連合会（会長：奥 博子氏、21名出席）、24日に和海地方4Hクラブ連絡協議会（会長：山下芙都史氏：12名出席）、27日に生石加工グループ（会長：大西 順美氏、9名出席）、28日に和海地方農業士会（会長：南方一誠氏、35名出席）がそれぞれ総会を開催し、いずれも令和7年度の活動報告、会計報告、新年度の活動計画などを審議し、議案はすべて可決された。

下津農業士会では総会後にJAわかやまながみね地域本部下津営農生活センターの土谷賢太郎氏から『趣味や特技を活かした人脈作りと産地振興』と題して研修会が行われた。氏は害虫の駆除に関するノウハウを足掛かりに農家の懐に飛び込み、また、趣味の釣りを通して異業種の人々とのつながりを広げ、これらのことから得た多様な情報を営農指導に活用しているとのことであった。また、試験から得られた農薬の効果的な使用方法などが紹介された。

さらに、海南市まちづくり部産業振興課班長 矢船晋佑氏から『海南市産地受入協議会について』と題して担い手確保に関する海南市の方針や取り組みの説明があった。農業士会としても担い手確保を進める立場にあり、どのように関係するか検討していくことになった。



下津農業士会総会



生石加工グループ総会



和海地方4Hクラブ連絡協議会(研修)



和海地方農業士会総会

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 紀の川市農業士会が総代会を開催

4月9日、紀の川市農業士会（会長：小川真司氏）は、紀の川市打田生涯学習センターにおいて令和8年度の総代会を開催し、関係者を含め26名が出席した。

総代会では、令和7年度の事業実績と決算、令和8年度の計画と予算について審議し、議案書のとおり承認された。

総代会後の研修会では、果樹試験場の岩本和也副主査研究員を講師に招き、「温暖化に対応した新品目・マイナー品目について」と題して、品種紹介や試験場での取り組みについて講演していただいた。また、希少な国産マカダミアナッツの試食も行われ、会員の多くが興味を示したほか、新品種の極晩生みかん「あおさん」についての質問があった。



小川会長の挨拶



研修会での試食の様子

### 2. クビアカツヤカミキリ対策会議及び園地巡回調査を実施

4月9日、那賀病害虫防除対策協議会（会長：中島康晴氏、管内各関係機関で構成）は、クビアカツヤカミキリの対策会議を開催した。管内の発生状況を考慮した調査地域の選定及び啓発活動、昨年度に設置した産卵阻止ネットのモデル園の状況と今後の取り組みについて協議した。22日には、紀の川市桃山町及び岩出市の425園地を延べ28名が4班体制で調査し、3園地で被害樹3本が新たに確認された。今回調査した地域において、本害虫の被害範囲は拡大しているが、早期発見・早期捕殺や夏期の一斉防除の効果もあり、甚大な被害の拡大には至っていなかった。

今後は、産卵阻止ネットの設置講習会を開催し、普及を進める。



発生調査前の打ち合わせ



ももで確認されたフラス

### 3. 紀の川市4Hクラブが総会を開催

4月24日、紀の川市4Hクラブ（会長：木村竜二氏）は、那賀振興局において令和8年度総会を開催し、会員9名と関係者が出席した。総会では、全ての議案が原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、川口陽平氏が新会長に就任した。総会終了後に今年度の活動方針について打合せを行い、新規クラブ員の確保につながるようなクラブ活動に取り組んではとの意見があがった。

また、クラブの活動内容や会員それぞれの農作業や販売に関する意見交換が活発に行われた。



総会で協議するクラブ員

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

##### ～農業技術講習会果樹コースの開催～

4月21日、農業水産振興課は、就農意欲があり、基礎技術を習得したい人を対象に、技術・経営力向上のための栽培技術講習会（果樹コース）を開催し、9名が受講した。

はじめに、津田普及指導員からかき栽培の基礎や結果習性、摘蕾の方法について、柏本副主査から病虫害防除および農作業安全について説明した。

その後、九度山町入郷のかき園に移動し、摘蕾の実演を行った後、受講者全員で「刀根早生」の摘蕾を行った。受講者からは、摘み取る蕾の選び方やカメムシ等の病虫害の防除方法、農薬の扱い方など、多くの質問があった。

当課では、引き続き講習会（果樹コース）を12月まで合計5回実施し、栽培指導を行っていく。



摘蕾の実演

##### ～農業技術講習会野菜コースの開催～

4月22日、農業水産振興課は果樹コースと同様に、野菜コースの栽培技術講習会を開催し、10名が受講した。

振興局内の会議室で、山口副主査から野菜栽培の基礎や夏秋野菜の栽培管理について、柏本副主査から病虫害防除について、日比技師から農作業安全について説明した。

その後、接ぎ木苗の説明をした後、実技講習としてユウガオを台木としたすいかの呼び接ぎを行った。受講者からは、生育状況に応じた施肥方法や具体的な施肥量について質問があった。また、呼び接ぎに苦戦しながらも熱心に接ぎ木に挑戦していた。当課では、引き続き講習会（野菜コース）を10月まで合計3回実施し、栽培指導を行っていく。



接ぎ木の実演

## 2. 令和8年度伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会の開催

4月23日、伊都地方農業士連絡協議会（会長：坂本佳久氏）は、九度山町ふるさとセンターにおいて、総会および研修会を開催し、会員14名が出席した。総会では、会長および来賓の挨拶に続き、令和7年度に退任された指導農業士および新規認定者の紹介が行われ、全ての議案が原案どおり可決・承認された。

研修会では、かき・もも研究所の井口雅裕所長から、チュウゴクアミガサハゴロモの生態・防除について講演が行われた。

本虫は伊都地方でも近年急激に増加しており、分布や生態、防除、農作物にもたらす被害程度等について、詳しく説明が行われた。出席者からは、自身の園地での発生状況や具体的な防除方法について質問や意見・情報共有があった。



井口所長による講演

## 3. 「匠の技 伝道師」による富有柿摘蕾研修会の開催

4月28日、農業水産振興課は、九度山町の富有柿栽培園において、「匠の技 伝道師」の中谷裕一氏による摘蕾研修会を開催し、9名の農業者が参加した。県では、卓越した農業技術を有する農業者を「匠の技 伝道師」として認定している。

研修会では、中谷氏から、樹勢や整枝剪定後の新梢の状況に合わせた摘蕾方法の実演とともに、品質の良い富有柿を生産するために必要な今後の栽培管理について説明を受けた。

参加者からは、1つの結果母枝でどれだけの蕾を残す必要があるのかななどの質問があった。



説明を聞く参加者



中谷氏による摘蕾の実演

## IV 有田振興局

### 1. 令和 8 年度第 1 回アグリビギナー・有田農業女子プロジェクト合同研修会を開催

4月20日、農業水産振興課では、5年以内に管内で就農した農業者と女性農業者を対象とした合同研修会を果樹試験場において開催し、14名が参加した。まず「温暖化で期待される果樹について(講師：岩本副主査研究員)」及び「近年発生が多い害虫について(同：間佐古環境部長)」という演題で講義が行われた。

続いて、場内ほ場において、中谷栽培部長によるカンキツの発芽状況の説明と今後の管理方法の実演が実施された。受講者は実際に発芽や着花の状況、樹勢など樹の状態を見ながら意見を交わし、これからの作業について理解を深めていた。受講者からは「花が多い樹への対応など、自園での作業で気になっていたことを聞いたので参考になった」「隔年結果への理解が深まった」などの感想が聞かれた。



中谷栽培部長による発芽状況の説明

### 2. 有田地方農業士協議会が令和 8 年度総会・研修会を開催

4月17日、有田地方農業士協議会(会長：上野山和広氏)が鮎茶屋で総会及び研修会を開催した。当日は各市町の農業士と関係者の計29名が出席し、令和7年度事業経過報告と収支決算報告、令和8年度事業計画案と収支予算案が原案どおり承認された。

研修会では、和歌山地方気象台福田英和調査官から「和歌山県の気候変動について」、果樹試験場の下村友季子副主査研究員から「近年発生が多い害虫について」と題して講演があった。出席者は熱心に聞き入り、今年の夏も猛暑の傾向が続くのか、ある種の害虫が大量発生すると他の害虫の被害は減るのか、などの質問が出された。



福田氏による講演

### 3. 有田地方4Hクラブ連絡協議会が令和8年度総代会及び技術交換大会を開催

4月22日、振興局において、有田地方4Hクラブ連絡協議会(会長：辻本真希氏)が総代会を開催し、各市町4Hクラブから12名のクラブ員が出席した。

総代会では、令和7年度事業経過報告と収支決算報告、令和8年度事業計画(案)と収支予算(案)が原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、新会長に有田川町4Hクラブの竹本昇平氏が就任した。

総代会終了後には、技術交換大会が開催され、クラブ員は農業に関する幅広い知識が必要となるペーパーテストと実物鑑定に挑戦し、日頃の活動で身に着けた成果をもとに競い合った。

採点の結果、団体の部では有田市4Hクラブ、個人の部では有田市4Hクラブの東山有樹氏が1位に輝いた。



総会



技術交換大会に取り組むクラブ員

## V 日高振興局

### 1. 日高野菜花き技術者協議会が微小害虫の総合防除研修会を開催

4月14日、日高野菜花き技術者協議会（会長：久保典也氏）は、印南町防災福祉センターでコナジラミ類をはじめとする微小害虫の総合防除に関する研修会を開催し、野菜等の生産農家16名、関係者を含め計32名が参加した。

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センターの北村登史雄上級研究員を講師にお招きし、「日高地域の野菜・花きにおける難防除害虫対策」と題して講演頂いた。微小害虫は人目につきにくく発生初期の防除のタイミングを逃しやすいことから、総合防除の基本となる「(害虫を) 入れない・出さない・増やさない」の実践が重要となることや近年日高管内で導入が始まっている天敵を利用した生物的防除、タバココナジラミの新規忌避剤アセチル化グリセリドについて学ぶ機会となった。

講演後の質疑応答では、すいか退緑えそ病等の微小害虫が媒介するウイルス病対策に関する質問が出された。



農研機構 北村上級研究員の講演

### 2. 日高果樹技術者協議会が令和8年産うめ着果状況調査を実施

農業水産振興課、JAわかやま紀州地域本部等で構成する日高果樹技術者協議会（会長：駒代博文氏）は4月16日、20日、21日に令和8年産のうめ着果状況調査を実施した。

管内うめ園114カ所を対象として、関係者のべ33名が100節当たり着果数及び果実の肥大状況を調査した結果、主産地（みなべ町・印南町）の100節当たり着果数が3.0果で、過去10年平均比45%と全体的に着果が少なかった。また、主産地の果実肥大（果実の長径）は25.0mm（過去10年平均比：112%）、1果平均重は9.2g（同：128%）と平年よりも肥大が進んでいた。

これからの生育状況や気象状況によっても作柄は変動するため、関係機関と情報を共有しながら動向を注視していく。



みなべ町現地圃場における着果調査  
(4月21日)

### 3. 日高地方生活研究グループ連絡協議会が総会及び研修会を開催

4月22日、日高地方生活研究グループ連絡協議会(会長：後藤明子氏)は、令和8年度総会及び研修会を開催し、会員及び関係者20名が出席した。

総会では、令和7年度の事業経過報告、収支決算報告、会計監査報告及び令和8年度の事業計画(案)、収支予算(案)について審議され、すべて承認された。また役員改選が行われ、後藤会長をはじめ全役員が再選された。

総会終了後の研修会では、山本均見氏を講師に迎え、「押し花アート」の制作を行った。様々な種類の押し花から各々好きな素材を選び、試行錯誤しながら小さな額縁に収めた。個性あふれる作品を皆で見せ合い、楽しい体験となった。



押し花を選ぶ様子



作品を持って記念撮影

### 4. 重点プロジェクト【うめの安定生産による産地強化】 ～電動バリカンを用いた摘心講習会を開催～

農業水産振興課では、うめ研究所、JAわかやま紀州地域本部等と連携し、うめ「南高」の低樹高化(カットバック処理)と摘心処理を組み合わせた展示ほを日高川町に1園地設置し、青梅の生産性向上に取り組んでいる。

4月27日にうめ生産者を対象とした摘心処理の現地研修会を展示ほで開催し、11名が参加した。

綱木普及指導員が充電式電動バリカンによる摘心処理の方法について、注意点を交えながら実演指導した。展示ほの着果量が多いことを確認した生産者からは、「不作年が連続しているので、導入を検討したい」といった意見が聞かれた。

今後は、2回目の摘心処理講習会を5月下旬に、せん定講習会を11月下旬頃に開催し、本技術の普及を図る。



日高川町現地圃場における摘心講習会  
(4月27日)

## VI 西牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】

#### ～電動バリカンによる摘心講習会を開催～

農業水産振興課は、「南高」の着果安定及び作業省力化を目的に、4月20日、27日、28日に田辺市新庄町、上富田町岡、田辺市上芳養にて摘心処理講習会を開催した。生産者67名とJAわかやま紀南地域本部の営農指導員5名、普及職員7名が参加した。

講習会では普及指導員より、充電式電動バリカンを用いた省力的な摘心処理方法や、若木への摘心処理は、結果枝の増加による早期の着果により、樹勢を落ち着かせる効果があることを紹介した。また留意点として、主枝や垂主枝先端部の新梢は樹冠拡大のため摘心せず、50cm程度伸長した時点で強風雨による枝倒れ防止のため、新梢の先端を10cm程度剪除して枝の硬化を図ることをポイントとして伝えた。

参加者からは「若木への摘心処理に取り組んでみたい」との感想があった。

今後は、省力化技術として、収穫後の夏季摘心処理の追加導入や低樹高コンパクト整枝の導入を推進していく。



若木に対するバリカンを用いた摘心処理  
(田辺市新庄町)

### 2. 川添緑茶研究会茶園地巡回を実施

4月16日、川添緑茶研究会（会長：上村 誠氏）は、白浜町市鹿野で、生育状況の確認、収穫時期の目合わせ、情報交換を目的として園地巡回を実施し、研究会から5名、田辺市本宮町の茶生産者2名、地域おこし協力隊1名、関係者3名が参加した。

地域内の茶園地10か所を巡回したところ、上村会長から「園地ごとに生育差が激しいが、地域全体としては概ね例年通りの収穫開始になりそう」、「(去年から続く)煎茶不足により、今年も販売単価が高いと予想される」、「早期にチャノホソガの発生がみられる」との意見があり、川添緑茶研究会における一番茶収穫開始を4月21日に決定した。収穫量は平年並の10t（生葉）を見込んでおり、製茶工場で加工された新茶は、静岡県の茶市場などへ荒茶として出荷されるほか、上級煎茶として商品化されたものが、5月中旬頃から田辺市内の茶専門店や一部のスーパーなどでも販売される。



園地巡回で意見を交わす参加者

### 3. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催

4月24日、西牟婁地方農業士連絡協議会（会長：泉 孝志氏）は、県情報交流センタービッグ・ユーにおいて、総会並びに研修会を開催し、会員及び行政関係者等約45名が出席した。

研修会は、果樹試験場の間佐古環境部長と角研究員より「エムダイファー水和剤販売終了後のカンキツ黒点病防除と貯蔵病害対策」について、うめ研究所の裏垣研究員より「梅のウメシロカイガラムシ、カメムシ類およびヨコバイの防除」について講演があり、会員からは、「エムダイファーの代替薬剤にデランフロアブルが良いということがわかったのはありがたい」や、「ヨコバイに有効な薬剤や、今年はカメムシの発生が多いという予測等、有益な情報が聞けた。早めの防除を心がけたい」等の感想が寄せられた。



総会における泉会長挨拶



病虫害防除に関する研修

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 東牟婁地方農業士会が総会を開催

4月7日、東牟婁地方農業士会（会長：松本安弘氏）は休暇村南紀勝浦において、会員及び農業水産振興課13名が出席のもと、総会を開催した。

松本会長の挨拶と当部の倉岡部長の祝辞の後、令和7年度の活動報告、会計報告、新年度の活動計画などの議案が挙がり、全て可決された。

続いて、松本会長から新規会員（立野仁徳氏：串本町）の紹介、当課の橘普及指導員から、「農業機械安全」、「農作業の熱中症対策」、「農業用ドローン薬剤散布支援のお知らせ」等の話題提供があった。



松本会長挨拶

### 2. 田植え体験の開催

4月24日、MYNS営農組合（代表：下阪殖保）、JAわかやまみくまの地域本部及び農業水産振興課は、近畿大学附属新宮中学校1年生（54名）を対象に新宮市熊野川町の水田（10a）で田植え体験を開催した。この田植え体験は、生徒達に水稻の作り方や米食に関心を持ってもらい、その重要性を伝えることを目的とし、平成29年から実施している。

代表挨拶の後、当課普及指導員が和歌山県の農業や田植えまでの準備作業について説明した。続いて、JA職員やMYNS営農組合員らが苗の植え方を指導した。生徒全員が横一列に並び1人3条程度を植えた。

4月下旬ということで、水田の水は少し冷たかったが、生徒達は楽しみながら田植えを行い、米づくりに関心を持ってもらうことができた。

今後は、8月下旬頃に稲刈り体験を行い、収穫した米は近畿大学附属新宮中学校の文化祭で販売される予定。



田植えを体験する中学生

## Ⅷ 農林大学校

### 1. 令和8年度入学式 17名の学生生活スタート

農林大学校は、4月10日に入学式を行い、園芸学科14名、アグリビジネス学科3名の計17名が入学した。初山校長は式辞で「2年間の学生生活を通して、農業に関する専門知識や技術だけでなく社会人としての力も養い、本県農業を担うリーダーに成長してほしい。『主体的に学ぶ姿勢』『人とのつながりを大切にする』『目標を持つ』の3点を心がけ頑張ってください」と新入生を激励した。

続いて、新入生代表の砂川悠明さんが「農業の基礎知識や技術、経営能力の習得やさまざまな資格取得に努力したい。学んだ知識や技術を実践し、物事を的確に判断・対応する力や体力、将来への自信をつけたい」と宣誓した。

今後、学生は農業に関する専門的な講義や実習、先進農家や試験場などで研修を行い、農家の技術や先端技術について学習を行っていく。



初山校長による式辞



新入生代表による宣誓

### 2. 1年生が県内の試験研究機関等で研修

4月23日から24日にかけて、1年生（18名）が最新の研究内容や事業内容について学ぶため、農林業関係の試験研究機関等（農業試験場、暖地園芸センター、果樹試験場、かき・もも研究所、うめ研究所、林業試験場、農林大学校林業研修部、農林大学校就農支援センター）と中田食品株式会社を訪問した。

研修先では、現在の研究内容や事業内容等について説明を受け、その後、ほ場や施設の見学を行った。ほ場見学では梅の摘心栽培や環境制御ハウスに興味を持つ学生が多く、各所で写真を撮影していた。

入学して間もないが、最新技術に関する学習だけでなく、2日間寝食を共に過ごすことで、学生同士の親睦や連帯感が深まり、有意義な研修旅行となった。



うめ研究所の見学



果樹試験場の見学

## IX 経営支援課

### 1. 和歌山県農業士会連絡協議会が総代会・研修会を開催

4月21日、和歌山県農業士会連絡協議会（会長：木下善久氏）は令和8年度総代会・研修会を開催し、農業士46名が出席した。

総会では、執行部から提案された全ての議案が承認され、滞りなく終了した。

また、令和7年度で定年を迎えたみなべ町の岡田敦雄氏がこれまでの功績を称えられ全国指導農業士連絡協議会から感謝状が贈呈され、木下会長から渡された。

総会后、「世界農業遺産 有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」に関する研修会が開催され、同世界農業遺産推進協議会の前会長である森田耕司氏から認定に至るまでの経緯や苦労について、有田みかん共選協議会会長の永石睦巳氏から世界農業遺産に認定されたことによる生産者への影響等についてご講演頂いた。参加者からは多くの質問があり、関心の高さがうかがえた。



岡田氏への感謝状贈呈



研修会にて永石氏による講演

### 2. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が令和8年度総会及び農村青少年技術交換大会を開催

4月28日、和歌山県4Hクラブ連絡協議会は令和8年度総会及び農村青少年技術交換大会を開催し、クラブ員18名が出席した。

総会では、執行部から提案された全ての議案が承認され、会長にみなべ梅郷クラブの木村啓人氏が就任した。総会后、公益財団法人和歌山県農業公社との共催で農村青少年技術交換大会が開催された。大会では、クラブ員が、様々な分野から出題された筆記問題35問と実物鑑定15問で構成される計50問のテストに解答し、点数を競い合った。採点の結果、成績上位者の中から有田地方4Hクラブ連絡協議会に所属する2名が岡山県で開催予定の全国農業青年交換大会に派遣されることとなった。また、当課の武田革新支援専門員から、農作業安全に関する研修を行った。



総会で議案を協議するクラブ員

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489